

伊根と暮らす



伊根町

伊根町は京都府北部、丹後半島の北端に位置し、東から北は日本海に面し、南は宮津市に、西は京丹後市に隣接するまち。面積は 61.95 km² で、人口は 2,143 人（2018 年 1 月 1 日現在）。古くから漁業農業で栄えたまちで、浦島太郎伝説や徐福伝説がそれぞれ伝わる。伊根浦地域には、海辺ギリギリに建てられた『舟屋』の町並みが現在も残る。初めて来たのに、なぜか懐かしい雰囲気がここにはある。

伊根町



CONTENTS

3 「私、こんな訳で住んです。」

暮らす人

- 4 【漁業夫婦編】 竹熊さん（I ターン）
- 6 【单身編】 大里さん（I ターン）
- 8 【農家夫婦編】 藤原さん（U ターン）
- 10 【单身編】 村井さん（U ターン）
- 12 【東京移住編】 神谷さん（I ターン）

伊根町のうまい飯

- 14 【海側のご飯】 小西家
- 16 【山側のご飯】 上辻家

18 伊根町で子育て

19 伊根町の主な行事表・ごみの出し方



『私、こんな訳で住んです！』

トークプロジェクト by IW-PJ

このトークプロジェクトの主催は、町内の若者で構成される IW-PJ.（伊根わくわくプロジェクト）。伊根町在住の方や移住を考えている方の町への想いを聞き、新たな交流の場をつくろうと 2017 年 12 月 16 日（土）に開催しました。

当日は 24 名が参加し、伊根町に住んでいる理由や良い点、困っている点などを共有。人との距離が近いところが魅力として挙がり、「良くしてもらった地域の方の顔が浮かんだから伊根に U ターンしようと思った。」という想いも聞かれました。



こんな意見もありました…

- 住む地域にもよるけど、地区の行事がとて多い！特に祭りは大変…。でも、それがあったからこそ町の人と絆ができた。
- 観光地化が進み、昔ながらの雰囲気は失われつつある気がする。町の整備も進んでいるけど、ここに暮らす人々を大切に、良い方向に向かってくれたらいいなあ。
- 人の出入り（転入・転出）に対してもう少し寛容になれば、移住・定住率が上がるのでは？
- 移住者に対するソフト面・ハード面ともにフォローがもう少し手厚くても良いと思う。慣れない環境で暮らし始めた時に、ほっとできるはずの自宅にストレスがあるのは結構辛い。
- すぐ住める空き家がありません。
- 仕事の選択肢が少ない。安定性のある職種がもう少しあると U ターンできる。
- 若者が少ないので、子育て世代の地域行事の負担が重く、夜に父親が家を空けることが多いと大変。
- 地元産の食べもののがもっと気軽に手に入る場所が欲しい。浜売りはちょっと敷居が高い。
- ストレス発散の場所がない。
- 交通の便が悪く、買い物にしても何にしても車の移動距離が長い！人生で車に乗っている時間は相当あると思う。
- 人が少ないし、圧倒的にマンパワーが不足している。
- 移住してくると家の改修など何かとお金がかかるが、区費や神社などに納める費用が負担になると感じる。移住してしばらくは全額でも半額でも免除してもらえると有難い。

IW-PJ.(Ine Wakuwaku Projects) って？

2016 年度の町の事業「めざせ！若人町民 100 人ミーティング。」から誕生した 20～30 代で構成されるグループ。小さな子どもを持つメンバー、平日は働いているメンバーが多いため、月 1 回のミーティングをベースに、無理なく、楽しく、ヨガ企画やブックマーカーづくり、今回のトークプロジェクトなど、各々のやりたいことを順に皆で取り組み、実現させている。「伊根町ではできない」ではなく、「伊根町なら何でもできる」ように、今後も活動を継続・進化させていく。



伊根町への移住に関する情報

- 2016 年度 伊根町役場への移住相談件数：36 件
相談者の現在の所在地
京都府内 10 東京都 5 大阪府 10
兵庫県 4 その他 7
- 2016 年度 移住者数：9 世帯 17 人
- 空き家バンク掲載数及び成約数
空き家バンク掲載数：15 件（2018 年 1 月 31 日現在）
2016 年度成約数：5 件





Case 01 漁業夫婦編（1ターン）

橋本水産
竹熊 幸弘（27 歳）

伊根町役場
竹熊 万由佳（29 歳）

竹熊 舵（4 歳）

PROFILE

1990 年生まれ。鹿児島県奄美大島出身。橋本水産（伊根町字亀島）に勤務。高校卒業後、奄美大島の養殖会社（西南水産）に就職。伊根町にも支所があることからまぐろ養殖の期間のみ伊根町で暮らしていた。奥さんとはこの時期出会う。一度、奄美大島に戻ったが、2015 年に家族で伊根町へ移住。

1988 年生まれ。与謝野町出身。伊根町役場（伊根町字日出）に勤務。高校卒業後、福知山市の企業に事務職として就職。その後、大阪などでも就職。地元で、旦那さんとの出会い結婚。結婚後は奄美大島で生活。友達から伊根町が子育て支援が手厚いと聞き、2015 年に伊根町への移住を決意。

2013 年生まれ。鹿児島県奄美大島出身。2015 年に住まいを伊根町に移し、食べる・遊ぶ・寝るを繰り返しながら元気いっぱい伊根町で生活している。

伊根で住むことになったきっかけ

万由佳さん 第 1 希望は与謝野町で探していた、でもなかなかないねと話してました。仕事も、いろんなものが伊根にあって、タイミングもあってかな。前、伊根で働いていた友達から、伊根町は子育て世帯に手厚いよ、保育料安いしという話を聞いていて、それですかね、きっかけは。一番背中を押されたというきっかけになったのは、子育て支援かな。

伊根に来たときの気持ちと今の気持ち

幸弘さん 始めてきたときは寒かったですね。雪も見なかったし（笑）。
万由佳さん 帰りたいとは思わないね。友達もできたし。

奄美の生活と伊根の生活の違い

幸弘さん・万由佳さん なんだろね。はははっ（笑）。



伊根町で働き出して思うこと

万由佳さん 伊根町はすごく、この規模で小さいんだけど、みんなが伊根町を盛り上げようとしているのと、役場に入って感じます。一部の人だけじゃなくて。
★インタビュー中ハプニングが発生！！
万由佳さん 「えっおしっこ？大変！とうちゃんと一緒にきてきて。」すみません。おしっこタイムです。

伊根町に UI ターンを考えている方へ一言

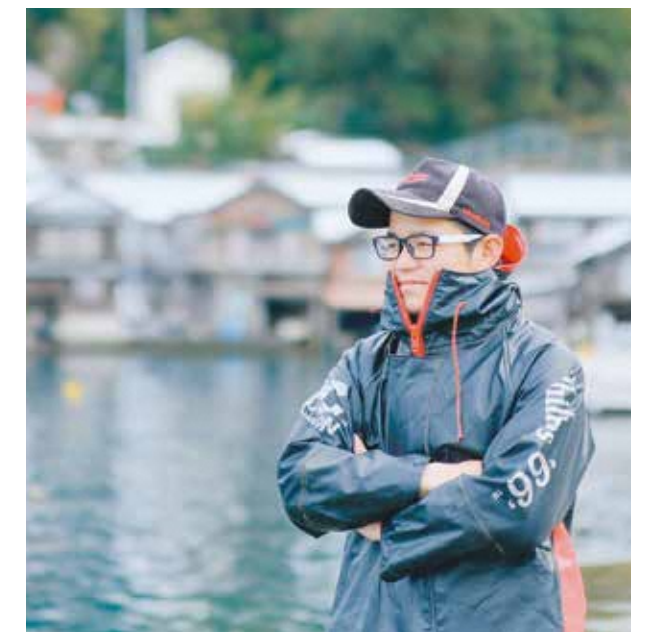
幸弘さん 伊根は魚がうまい！（笑）。
万由佳さん 伊根のことを全く知らなくても、お世話を焼いてくれる、おじさんやおばさんがきっと近所にいるので、何も知らなくてもたぶん大丈夫だと思いますよ。

これから挑戦してみたいこと

幸弘さん 舟屋に住みたい（笑）。
万由佳さん 熱い思いがなくここにいるので、立派なこととは言えないですけど、うちに近所の人が集まってみんなで鍋したり、お酒飲んだりそういう輪を広げていけたらいいかなと思ってます。

伊根の漁師として働いてみてどうですか。

幸弘さん 奄美大島でも漁師みたいな事はやってたんですけど、魚の値段・単価が同じ魚でも全然違いますね。こっちの方が値段が高くつきます。あとは、個人漁師さんが多い。漁師の人口の割りに個人漁師が多いと感じますね。





Case 02

単身編（1ターン）

伊根町観光協会

大里 晃司（30 歳）

PROFILE

1987 年生まれ。滋賀県大津市出身。伊根町観光協会の職員。大学時代にはスペインに留学経験がある。大学卒業後、機械部品メーカーの営業職に就くが、地方やまちづくりに興味があり地方の求人を探すように。2017 年 4 月に伊根町に移住。将来の伊根町を考える『おちゃやのかか（施設名）ミライブプロジェクト』など、まちづくり活動にも取り組む。

伊根で住むことになったきっかけ

大学時代スペインに 1 年間留学していて、その際地域コミュニティがしっかりしていたのを見たんです。歴史的な背景もあるけど、ヨーロッパ全体が「自分の町は自分が作っていく」といった意識が強かったです。それを見て、まちづくりに興味を抱きました。地方やまちづくりに興味が出てきたのはこのあたりからかな。大学を卒業して普通の会社員になりましたけど、地方やまちづくりにどこか興味がありました。あと、都市部の働き方にも疑問があって、くすぶって、去年 30 歳になって、収入といった価値観だけでみずに、やりたいことをみようと思って、地方の求人を探し始めて、たまたま伊根町の求人を見つけました。地方で働いたほうが今の生き方的に自分にとって魅力的で、やりがいとか、都市部では見いだせない良さがすごくあって、お金とかそんなのではない部分があるなと思って、伊根町に住みたいと思いました。

伊根に来たときの気持ちと今の気持ち

伊根町って面接に来るまで正直知らなくて、面接に来て始めて知りました。だから、伊根町に来るまでイメージが明確ではなかったですね。「なんてきれいな景色なんだ」というところから入ったかな。漁師町だから、荒々しい、そんなイメージで。今は温かいと感じる部分はある。いろんな人に会って、物をもらえたりとか、魚もらったり野菜もらったり。後は、人との繋がりもある。これは良い面、悪い面はあると思う。ある人はプライバシーが無いって言うけど、自分のことを次の日にたくさんの人が知っているとか。それが嫌だって言う人もおるけど、僕はその部分はあまり嫌だとは思わないかな。別に気にしないっていう性格もあるのかもしれないけど。常に地域と共に歩みたい、安心感というか、そういうのはいい面だなと思う。あと、仕事面でいうと、最初来た時は、どんなことが地域に貢献できるんだろうって考えていた。どんな人が地域にニーズがあるんだろうとか。今はいろんな人から吸い上げた情報をもとに町が今後やっていきたい形を自分の答えを持っていないといけない。自分の中の考えと、町の方の考えとをうまく具合にあわせて、町がより発展できるようにやっていきたいかな。

これから挑戦してみたいこと

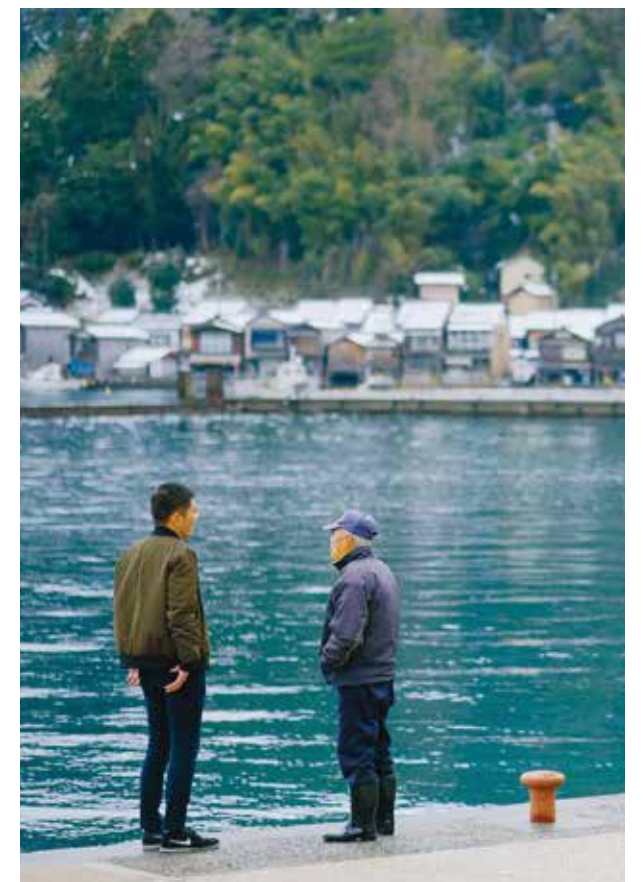
観光協会としても観光客の受入の質を向上させていきたいと思う。

舟屋ってマーケティングして、このロケーションでこんなことしたからお客さんが来るといったものではないと思う。あくまでも、外の視点が変わっただけっていうのはしっかり受け止めて、来てくれる観光客にいかにも満足してもらえるかという受け入れ側の質を上げていくような活動をしていきたいけど、具体的にはまだ。とりあえずガイドの人数を増やしたい。



伊根町に UI ターンを考えている方へ一言

海との距離が近い穏やかな海があるのはここで感じます。例えば、太平洋だったら波が何メートルもあるようなところって、海との距離が遠いけど、ここは海との距離が近いから親和性が高くなるのが魅力的。ほんとにいい町だと思う。





伊根町で生活をしていて思うこと

幸生さん なかなか若い世代の子が少ないなとは思いますがね。もっとUターンでもリターンでも若い子が帰ってきてくれるとか、移住してくれるとか、少し魅力が足りないのかな、どうすればいいのかなとは思いますがね。

奥さんは伊根町にいられていかがですか

佳織さん 私の実家も田舎で、似たようなところはあるんですけど、実家以上に人が温かくて、何でも声をかけてくれて、みんなが地域のことを気にかけているところがいいと思います。

伊根で農業を考えている方に一言

幸生さん 農業を一から始めるとなると、資金であったり、周りの環境だったり、なかなか踏み出せないのはあるとは思いますが、でもいろんな団体とかもあったり、地域の人たちみんなでやっているの、サポートとか支援は手厚いと思います。困ることがあれば、すぐに周りの人が助けてくれたり、相談に乗ってくれたりするので、若くてもスタートするにはやりやすいと僕は思います。

みんなが助けてくれるので、いいと思います。

これから挑戦してみたいこと

幸生さん 規模拡大はやりたいですね。自分のオリジナル、僕といえばこれだなというような野菜は作ってみたいです。



Case 03

農家夫婦編 (Uターン)

農家

藤原 幸生 (29歳)

JA 京都伊根支店

藤原 佳織 (28歳)

PROFILE

1988年生まれ。伊根町本庄上地区出身。農家。高校卒業後、京都市内の大学に進学。地元に戻りたいという気持ちが強く、2011年3月に伊根町へ戻り、家族でお米、京野菜などを栽培する農家になった。

1989年生まれ。与謝野町出身。JA 京都伊根支店の職員。高校卒業後、京都府亀岡市内の大学に進学。2011年3月に地元に戻り、結婚を機に伊根町へ。

Uターンしたきっかけ

幸生さん 高校と大学は伊根とは遠いところで進学していて、大学4年間は京都市内で生活していたんですけど、やっぱり自分の地元には帰りたいという意識はあって、どうしようかなと。仕事も考えないとあかんし…と思っていたところで、実家は家業の農業をしていて、後継者が見つからないというのもあって、僕が帰ってきてここで農業しようかなと思って、こっち帰ってきたかな。





Case 04

単身編 (Uターン)

農 家

村井 真吾 (31 歳)

PROFILE

1986 年生まれ。伊根町本庄上地区出身。農家。京都府立農業大学校(京都府綾部市)を卒業後、伊根町に戻り、家族で農業を営む。

伊根で住むことになったきっかけ

将来は農業がしたいと思っていて、農業大学校では農業を専攻していました。学生時代に色んな農業を学んで、将来どこで、どのような農業をするのか迷っていましたが、将来、自分の実家は誰が守っていくのか、ふっと考えた時に、自分しかないと思って、実家に帰り農業をはじめました。

伊根に住んでいて思うこと

他の町と比較してもこの地区は若い農業者がたくさんいます。これは本庄地区の自慢すべきことです。なので、農業で悩みがあれば気軽に相談できるし、休みの日には結構若い人らで遊んだりもしています。

農業を家族でやっていて思うこと

家族でやってて、特別何も思ったことないな(笑)。

好きなように家族でやっているの、楽しちゃ楽ですね。一人でやるよりは家族で手伝ってもらってやるほうが仕事も早く済みますし、好きなことも言えますし。あとは、自炊とかしなくていい分、仕事だけなんで楽ですね。

思うのは、将来は父親から農業を引き継ぎ、自分が経営者としてやっていかなければならない責任があるので、今のうちから色んな技術を学んでいますかね。

これから挑戦してみたいこと

今は、九条ねぎ、小かぶを施設園芸で生産しています。過去には、父がトマトの生産をやっていました。昔は本庄地区もトマトの生産地だったと聞いていて、それを復活させて、商品開発ができればいいなかと考えています。

伊根町に UI ターンを考えている方へ一言

伊根町には結構若者がいます。飲みに行ったり、遊んだりして、和気あいあいとした感じですよ。そして、何にでもチャレンジできる環境があるので、伊根町に帰ってきてやりたいことを実現してみたらどうか。





伊根に移り住んだときの気持ちと今の気持ち

佳秀さん 来た時は家づくりながら、村の人たちと接する毎日だったから楽しかったです。まだ働いてなかったんで、3ヶ月は家作ろうと。半分キャンプみたいな感じで、自分たちで道具持ってやってたんで、すごく充実していた。思ったより周りの方が親切で。田舎に行く人間関係が大変だというのは耳にしていたんですけど、全然違和感なくずっと地域に入っていて、気づいたらいつも野菜が冷蔵庫にあるみたいな。季節が夏だったから良かったのか、きゅうりやゴーヤがたくさんありました（笑）。周りの方々に恵まれたから、割と最初から不安なく始められたような気がします。大工さんも地元の方なのでいろんなことを教えてくれるし。お風呂場だって心配だったから早めに直してくれてたりとか、結構細かくケアしてくれてたんで、すんなり移住した楽しみがスタートしましたね。

菜都子さん 働きだしたら、ご近所さんとのコミュニケーションが減ってしまったのが少し残念だけど、最初の3ヶ月があったからこそ、地域に早くなじめたかなと思うので、仕事でまた友好関係も広がって、また新たな楽しみも。現実も分かりつつあるかな。

伊根町で働き出して思うこと

菜都子さん 東京の大病院で働いていたときからは丸っきり反対で、介護の現場で働くことになって、しかも新しい土地で、誰も知っている人もいなくて、たぶん受け入れてくれる方々の方が心配だったんだと思うんです。大丈夫になって。よく聞かれましたしね。でも、働いてみると、一緒に働いている人たちも地域の方なので、優しくしてくれるし、利用者の方も地域の方々だから、「伊根こういうところがいいんだよ」とかいろいろ教えてくださって、むしろ働き出したことでさらに地域のことが知れたり、また一歩伊根の中に入れたかなと気がします。伊根の中で働くことにして良かったなって、隣町の病院で働くことも始めは思っていたんですけど、やっぱり地元で働けて良かったと思いますね。



これから挑戦してみたいこと

佳秀さん まず家を完成させること。あと、余暇があれば自分たちでお米とか勉強して、囲炉裏作ってとか、自然の中に入っていける生活にシフトはしたいですけどね。ただ、働かないわけではないんで、そのバランスを挑戦したいなと思いますね。あと、僕だとずっと銀座でバーをやっていたので、ここが観光客だけではなくて、地元の人がコミュニティとして、ふらっと立ち寄れるスペースが立ち上げられたら地元の人たちと、面白いかなと。それはお酒というキーワードだけではないんですけどね。なんでもいいんですけど。

伊根町にIUターンを考えている方に一言

菜都子さん 自然もいいし、お魚は美味しいしね。私たちもだけど、そのあたりを目的に移住して来ると思うので、一番心配なのは、現実的なお金や仕事、地域に溶け込めるかの3つが都会から移り住むときに不安だと思います。でも、伊根ってわりと移住してきている人って多いし、大工さんなり役場の人も、受入体制が手厚いほうだと思いますから安心して飛び込んで大丈夫なんじゃないかなこの町は。

佳秀さん なんだかんだ仕事も選ばなきゃあるし。

菜都子さん 後は、夏に移住したほうがいいかな（笑）。思い切って次の生活を始めてみると、以外に何とかなると思うので、是非来てくれたらなと。仲間がほしいな（笑）。

佳秀さん 私たちの世代がいらないからね。

菜都子さん 空き家はたくさんあるので。うちの地域にも空き家いっぱいあるので。来て頂きたいな。何とかあります！



Case 05

東京移住編（Iターン）

「舟屋日和」INE CAFE
神谷 佳秀（48歳）

PROFILE

1969年生まれ。愛知県刈谷市出身。伊根町観光交流施設「舟屋日和」内にあるINE CAFEのスタッフ。前職は東京・銀座のバーテンダー。2017年に夫婦で伊根町中原地区に移住。

特別養護老人ホーム長寿苑
神谷 菜都子（36歳）

1981年生まれ。千葉市川市出身。特別養護老人ホーム長寿苑（伊根町字六万部）で介護士で、前職は東京都内の病院で助産師をしていた。

伊根に住むことになったきっかけ

菜都子さん わたしがいなか暮らしをしてみたかったっていうのがずっとあって、何年かしたらと思ってたんですが、たまたま伊根町に来たときに、この家と海との出会いがあったので、待ちきれなくなってしまい、早めに移住してきました。

佳秀さん 色んな場所も見たんですけど、見た中で伊根と、この家を気に入って、じゃあ引越ししようかっていう最後、勢いは早かったね。





ほとんどが、地元の食材だったり、
自分で栽培した野菜！！

小西家の場合 海側のごはん

小西 達朗

1950年2月21日生まれ。高校卒業後、京都市東山区の知り合いがいたお酢の会社で3年間勤務。1973年に新井地区に戻り、新井崎漁協（現、（有）新井崎水産）の定置乗組員として就職し、2015年12月に定年退職。今も新井崎水産の朝の魚寄り作業など漁業現場と関わりがある。

小西 二美子

1948年生まれ。宮津市日ヶ谷地区出身。京都市内で働き、1974年に結婚して新井崎地区へ。栄養教諭として35年間働き、定年退職。今は野菜作りをしている。

本日のごはん

- | | |
|------------|--|
| ● ごはん | 小西家の田んぼでとれたお米 |
| ● 野菜の天ぷら | 春菊、にんにく、たまねぎ、は自家栽培 |
| ● ゆでブロッコリー | ブロッコリーは自家栽培 |
| ● 鰯の刺身 | 新井漁港産 |
| ● うごのごま和え | うご＝えごり（正式名称）、泊漁港産 |
| ● えのはの天仁煎り | えのは＝しいのは、新井漁港産 |
| ● 味噌汁 | かぶら、里芋、にんじん、豆腐、味噌。野菜は自家栽培、味噌は宮津市日ヶ谷集落産 |



買い物はどこでしている？

生協や、宮津・岩滝のスーパーが多いですね。にしがきとバザール、ミッブルも行きますね。宮津方面に行ったついでに買うことが多いね。でも買うのは生協（共同購入、個人宅配）が多いかな。

生協ってどうやって申し込むの？

配達の人に言ったらすぐに申し込めますよ。だから、ここの地域は使っている人、多いですよ。少し手数料は取られるけど、家まで届けてくれるから。トイレットペーパーとか大きいものとか缶ビールのケースとかお店で買ったら車まで運ばんなし、持つの大変だから。生協で頼んだら家まで持ってきてくれるでね。だから、私とか新井の知っとる人に言うたら、すぐに書類は持ってきてくれるよ。配達員さんは若い人だけど、親切で丁寧な対応ですよ。

伊根町内にスーパーとか無いですけど不自由はない？

伊根町内にスーパーやコンビニが無くてもしっかりと不自由は無いかな。若い方はどう思っているかわからないけど。宮津の方に行くことはあるから、その時にまとめて買ってくるからね。車運転できる間はね。出来んようになった時には分からないけど。高齢者の方は、生協とか、町がやっている買い物支援バスで行かれる方が多いんじゃないですか。あれはいいと思うわ。農協や郵便局にも行けるでね。

魚を食べる頻度は？

ほとんど毎日。365日かな。台風が来て、定置網が出ないときがあるじゃないですか、そういう時は、冷凍庫の魚も無くなり、寂しくなることはありますけど。ほとんど毎日やな。肉はあまり出ないかな。肉はまとめて焼肉したりとかの時くらいかな。

どんな料理が多い？

刺身と焼きものと煮つけと揚げもん。シンプルなもんが多いですね。お父さんがあまり凝ったもんが好きじゃないから。

漁村での暮らして？

私、元々が海のない宮津の日ヶ谷出身だから、日ヶ谷では魚なんてしょっちゅう食べれんし、もちろん京都市内なんて食べれないし、ほんま食べへんかったね。結婚して、新井で暮らすようになってから、美味しい魚が食べれる。

最後に！

自然豊かだし、畑も田んぼもあってね。野菜も育ててるし、自給自足で頑張れば、若い人が来ても、できると思うで。野菜を育てるならサルだとかの対策しながらやっていかんなんから、作る大変さもあるけど、喜びもあるし。魚はもちろん美味しいし。うまいこと使っていけば、すごくいいと思います。みんなお嫁さんがいないって聞くと、お嫁さんに来てくれそうなのも来てほしいな。結婚して定住してくれる人。新井崎水産の寮に住んでいる子たちも、よく挨拶もしてくれるし、頑張ってますよ。



ほとんど、おばあさんの畑で収穫した野菜を使った料理



上辻家の場合 山側のごはん

上辻 絵理

1965年5月生まれ。京都市出身。京都市内では、喫茶店で働く。1989年12月、25歳のときに結婚を機に伊根町へ。伊根町内では水之江の里浦島公園で15年間勤務。現在は伊根中学校で給食の調理員。子どもは3人。現在は、旦那さん、長男さん、義理のお母さんと4人家族。

本日のごはん

● 白ご飯	上辻家の田んぼでとれたお米	● ごぼうとこんにゃくのきんぴら	おばあちゃんの手作り
● 豚汁	ごぼう、とうふ、小芋など	● 切り干し大根	おばあちゃんの手作り
● かわはぎの煮付け	蒲入漁港産	● 唐辛子の葉っぱのたいたん ※煮物	おばあちゃんの手作り
● 水だこの刺身	蒲入漁港産	● 特製たくあんときゅうりのキュウちゃん	おばあちゃんの手作り
● 地鶏のから揚げ	三野養鶏（伊根町字本庄上）		

メニューについて

いつもはおばあさんが畑で獲ってきた野菜を見て、メニューを決めますね。旬のものを食べてます。だから、豚汁も小芋が採れる時期にならんと豚汁を作らんな。小芋入れな豚汁おいしくないし。味噌もうちで作っとるで。菅野では4軒作っとるところがあるんちゃうかな。買うってゆうたら、肉や魚かな。魚は伊根中学校に蒲入水産が売りに来たときに買ったわ。

メインは大体私が作るんだけど、煮物とかはおばあちゃんの担当かな。



どこで買い物することが多い？

自分のところで手にはいらんもんは、どっか出掛けたついでに買うかな。スーパーのフクヤかバザールとかで。買い物は週に1回。買うものは肉とかいろいろだね。仕事の帰りにJAに寄って魚買うこともあるかな。蒲入水産の魚はすでに料理がしてあって、フライ用にパン粉ま

ほんま菅野に来てびっくりすることだらけ

私、ここに来るまで、こんにゃくが芋からできるなんて知らなかったし。ほんまに菅野の人がすごいなと思った。伊根に来たときに息子をおなかに持ってきたんだけど、ケーキのお店もなんにも無いやん。そしたら、近所の人上手にケーキ作られるし、「田舎の人は無いもんは作るんだ」って思っ。私も電子レンジ買って、作ったな。フライドポテトも作ったな。こんな生活やから、レトル

筒川での暮らして

自給自足だね。田舎の人は素晴らしいと思う。おばあちゃんの世代は特にすごい動きなる。初めて伊根の刺身を食べたときは感激したな。大皿にいっぱい刺身だったし。だって子どものときは刺身なんてお父さんの食べ物だったでね。お父さんは働いてるから特別に刺身を食べてて、それを子どもたちは食べない生活だったけど、こんなんが子どもでも食べれるんかって感激した。野菜はスーパーで買った野菜は甘みがない。食材の美味しさをこっちに来てはじめて知ったわ。とうもろこしの甘さだって、買ったやつは甘くない。でもおばあさんが作ったやつはあまーい。私は、スバゲッティーとかそんなもんが食べたいとはじめ思ってたけど、そんな店はないし、この家にはそんな料理が合わんし、ちょっとストレスを感じてたときもあったね。菅野に来たとき3年間は何でも売ってる移動スーパーが3軒くらい来てたな。そのうち、1軒の移動販売車が冷凍庫を持って、アイスクリームを売ってて、それを買に行ったな。私、3年

移住を考えている人に一言

生活は不便けれども、人間らしい生活が送れますね。新鮮な食材を手に入れることができるね。素材が美味しかったら何したって美味しいし、そんな生活ができますよ。

でついとるんがあるで。値段高いけど、仕事して帰ってきたらすぐに揚げるだけだし便利やな。ほとんどは伊根のものを食べてるかな。だから、食費はほんまに助かるとるね。

ト食品だって子どもも食べへん。市販のパン粉の付いたエビフライとかも息子は食べへんで。美味しくないって。えびは漁協で買って作らな食べへん。逆に私の実家の家族はかわいそうだと思う。ほんまの美味しいもんを知らないから。きゅうりだって、作ったやつおいしいやん。春は山菜や自然薯やいっぱい採ってきなるし。

間は菅野から買い物で出なかったもん。買い物ゆうたら、2週間に1回か1ヶ月に1回、ショッピングセンターに旦那さんと買いに行くくらいだったな。菅野に来て3年間は移動販売が楽しみだったな。昭和初期みたいな生活だった。お風呂だって薪で沸かしてたで。平成ですよ！びっくりしたわ。雪の降る時期に家の前で立ってたら、近所のおじいさんが「そんなとこ立っとったら死ぬるど」ってゆわれたけど、「えって」感じだった。そのときはわからなかったけど、上から雪が落ちてくるで言ってくれたんだと後で分かった。京都市内から来たらそんなのわからんやん。そんな知識もないし。

婦人会行ったら、みんな割烹着着てるし、割烹着買に行かなあかんと思って買いに行った。それにあわせるのはジャージ。それがこの辺のご婦人の格好スタイルだった。地域のスタイルにあわせなあかんと思ってすごい苦労したな。言葉も苦労したな。旦那さんは京都にいた時と言葉が変わるし（笑）。





アクセス

【車の場合】

京都市内から 京都縦貫自動車道～山陰近畿自動車道「与謝天橋立IC」～R176～R178～伊根町＜約2時間10分＞

【電車&バスの場合】

直通特急でJR京都駅から京都丹後鉄道「宮津駅」又は「天橋立駅」で下車＜約1時間＞。路線バス（宇川温泉よし野の里、蒲入、伊根郵便局前、行き）に乗り換えて約1時間。

伊根町役場は「伊根診療所」で下車。

編集・発行

伊根町役場 企画観光課 企画係

626-0493 京都府与謝郡伊根町字日出 651 番地

TEL：0772-32-0502 FAX：0772-32-1333

E-mail：info@town.ine.lg.jp

URL：http://www.town.ine.kyoto.jp

発行日 2018年3月1日